オーディオ実験室収載

EMT981 再生系の再構成(18)
－ハイドンを聴く(9)－

１．はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

２．EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(＊)→TruPhase→.300B

＊：GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの弦楽四重奏曲です。

SONY　SRCR1898

ハイドン　弦楽四重奏曲　第 81 番～第 83 番

四重奏楽章＜老人＞

ラルキブッテリ

DENON　COCQ-83291

ハイドン　弦楽四重奏曲　第 81 番～第 83 番

クイケン四重奏団

３．EMT981 の試聴結果

ラルキブッテリ盤は、1996 年の録音です。ラルキブッテリというグループは、バロックチェロのアンナー・ビルスマが中心となって結成されたアンサンブルでブデッリというのは、ガット弦（複数形）という意味だそうで、バロックから始めてロマン派までカバーするようになっています。弦楽四重奏曲の第 81 番～第 83 番は、グループ名の文字通りガット弦の楽器で、ヴィブラートを効かせず、アップテンポ気味の切れ味のよい勢いのある演奏です。四重奏楽章＜老人＞は、あまり聴く機会のない曲ですが、しみじみとした小品です。

クイケン四重奏団盤は、これも古楽のグループで、1998 年の録音です。クイケン四重奏団の演奏はどちらかと言えば、スタティックな演奏という印象が強かったのですが、ラルキブッテリ盤と同じく、第 81 番～第 83 番の演奏では切れ味がよくダイナミックな表現も出ています。

４．まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤ともガット弦の演奏でディジタル臭さを感じない切れ味のよい艶やかな音が楽しめます。

前報(13)以降、ハイドンの弦楽四重奏曲を集中的に聴いてきましたが、古楽のグループから近代的な演奏のグループまで、オーソドックスな演奏から現代風の演奏まで、さまざまな演奏スタイルで聴くハイドンでしたが、そういった多様な表現が的確に把握できました。

以上